



市の新たな一面を見ることができた、などの声が寄せられました。

まちを巡って魅力発見！SNSで情報発信！ 第4回野々市シャルソン

10月22日(日)、野々市シャルソンが開催され、市内外の54名が参加しました。シャルソンとは、ソーシャルマラソンの略で、まち歩きをしながら発見した地域の魅力をSNSで発信するというものです。当日は、給グルメ・給アートなど、まちに設けられた補給ポイントのほか、金沢工大の学園祭に石川県立大の学園祭、JAのいち農業まつりがあり、見どころ満載。バラエティ豊かな学園祭の模擬店や、畑での芋掘り体験など、参加者は思い思いに楽しみ、情報発信をしました。

「賢いバス停」が子どもたちを見守る 親子向けIoT体験＆キーワードラリー

10月28日(土)、バス停を使って児童を見守るプロジェクトの実証実験が市内で行われました。参加したのは市内外の親子10組22人。児童らはクイズを解きながらカメラが設置されたバス停を巡りました。カメラが児童を認識すると、保護者のスマートフォンに児童が通ったバス停の位置が表示される仕組みです。

この事業は金沢工大のBus Stopプロジェクトのメンバーを中心に、金沢高専、NECソリューションイノベータ(株)、ヨシダ宣伝(株)と市が協力して実施しました。



プログラミングを学んでゲーム作りを体験！ 産学連携プログラミング教室



慣れない体験にも興味津々で取り組んでいました。

10月21日(土)、菅原小学校の5・6年生16人がプログラミング教室に参加しました。2020年度から小学校でプログラミング教育が必修となることを見据え、(株)PFUとの連携で行われた教室では、児童自らコンピューターにプログラムを入力。慣れない作業にてこずっていましたが、時間が経つと素早く入力できるようになり、ブザー音を鳴らしたり、ライトを点灯させたり、命令通りに動いたときは歓声が上がっていました。最後には自分たちでゲームを作り、得点を競いました。



トリックオアトリート！ HALLOWEEN in NONOICHI

10月29日(日)、情報交流館カメリアで国際交流員のエドワード・ミルナーと楽しく学ぶハロウィンイベントが開催されました。児童たちは、思い思いの仮装をして参加。魔女になったり猫に扮したりと、会場はハロウィンならではのぎやかな雰囲気に包まれました。

エドワードの母国イギリスでのハロウィンを紹介すると、児童らは興味津々な様子で聞き入っていました。お化けカボチャの入れ物作りや体を動かす外国の遊びを交えながら、楽しいひとときを過ごしました。

工作うまくできたよ！ご褒美にエドワードからアメをGET

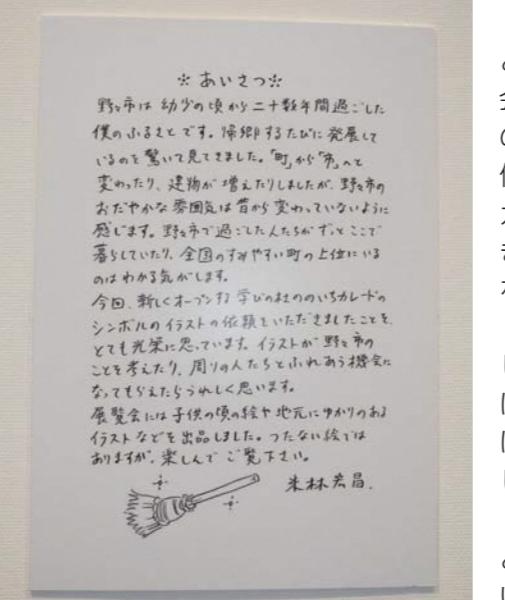
まちの話題 FOCUS

皆さんの周りの楽しい話題やイベントなどの情報を教えてください。
秘書広報課 (☎ 227-6056)

学びの杜のいち カレード 開館イベントが目白押し！

11月1日(祝)、学びの杜のいちカレードがついに開館しました。当日は、市立図書館と市民学習センターの複合施設として、注目を集めてきたカレードの中を一目見ようと、開館前から多くの市民が訪れました。開館に際し、栗市長は「カレードは市民の皆さんのが気軽に集まることのできる場所になってほしい」とあいさつしました。開館後は夜までたくさんの市民が訪れ、天井まで届く巨大なブックタワーやタッチパネル式の電子掲示板など、新しい設備を揃えた図書館を存分に味わいました。

カレードの開館時間は午前9時から午後10時で、毎週水曜日が休館日となっています。



カレードの開館を記念して、市出身のアニメ映画監督・米林宏昌氏と博物学者・小説家など多数の分野で活躍する荒俣宏氏による講演会、米林氏の展覧会など、多数のイベントが開催されました。米林氏の講演会では、映画「メアリと魔女の花」で実際に使用された原画を使った、アニメーション映画の作り方の説明がありました。米林氏はカレードについて、「野々市のためにこのカレードに関わる仕事ができて大変うれしい。昇降幕・パオに描いたイラストを通して市に興味を持ってほしい」と語りました。

また、荒俣氏は「本にまつわる物語」をテーマに、日本で読書が親しまれてきた歴史などについて講演。カレードについて「図書館はもはや本を収蔵・保管する場所でなく、市民が楽しむ場所。カレードにはキッチンスタジオも併設されていて感動した」と語りました。

カレードでは料理教室や陶芸教室、かがく実験教室など、12月以降もたくさんの学びのイベントが予定されています。



広報写真アルバム
2次元バーコード